

## 本学「教育フォーラム」の取り組み 2 — 2020 年（R2）～2024 年（R6）の記録 —

岐阜聖徳学園大学教育フォーラム実行委員会

### Gifu Shotoku Gakuen University "Education Forum" Initiative Records from 2020 (R2) to 2024 (R6)

Gifu Shotoku Gakuen University Education Forum Executive Committee

キーワード：現職教育 フォーラム 学習指導改善

#### I. はじめに

本学「教育フォーラム」は、2017 年（H29）6 月から開催している。

2017 年から 2019 年までの 3 年間は、岐阜駅近郊で行っていた教育実践科学研究センター主催による夏休みの期間の研修会を踏まえて、愛知県内の卒業生も岐阜県内の卒業生も参加しやすい地である名古屋駅近郊において開催した。

2017 年から 2019 年までの取り組みについては、本紀要第 19 号において「本学「教育フォーラム」の取り組み」<sup>1)</sup>において示した。本稿は、その後の 2020 年（R2）から 2024（R6）の 5 年間の「教育フォーラム」の取り組みを示すものである。

この 5 年間には、2020 年 1 月に国内で初めての感染が確認された感染症 COVID-19 の流行（以下コロナ禍と示す）がある。

本学「教育フォーラム」もコロナ禍の影響を受けた。それにより、2017 年から 2019 年までの 3 年間の取り組みから大きく変更した部分がある。開催開始当初の 3 年間を「教育フォーラム」の第一期とするならば、2020 年（R2）から 2024（R6）の 5 年間は第二期といえる。本稿はこの第二期について示すものである。そして、本学「教育フォーラム」は第三期に向かっていることを明示する。

#### II. 「教育フォーラム」5 年間の実際

##### 1. 2020 年（R2）

2020 年の「教育フォーラム」は実施することができなかった。理由はコロナ禍によるものである。

ここでのことが、「教育フォーラム」が明確に第二期に向かう結果となる。

2020 年は、2017（平成 29）年に告示された学習指導要領が全面的に実施された年である。小学校では、4 月から新しい学習指導要領に基づいた教科書により、授業が展開される年であった。それゆえ、2019 年までの「教育フォーラム」も新しい学習指導要領の実施に向けての取り組みが中心であった。メインタイトルに「新学習指導要領でバトルする」「新学習指導要領を深掘りする」を掲げ、新しい学習指導要領改訂において中心的役割を果たした奈須正裕（上智大学教授）氏を講師に招いて 3 年間実施した。

2020 年の「教育フォーラム」は、学習指導要領の全面実施を受け、過去 3 年間の実績を踏まえつつも、新たな課題への取り組みを計画した。図 1 はその時のチラシの内容である。メインタイトルは新学習指導要領の次を意識して、「新しい学習指導要領」という文言を無くし、年号が平成から令和へと移ったことを意識したものとした。そして、講師を文部科学省の行政官に依頼し、本学教員が講演を受けてシンポジウムを行うこととした。この部分は新たな取り組みを企画したものである。

一方で、名古屋駅近郊の会場で行うこと、講演—シンポジウムという流れとは別に教育実践セミナーを設けた部分は、過去 3 年を踏襲したものである。

メインタイトル：令和時代の教育をリードする  
 日時：2020年6月7日（日）  
 会場：名古屋ルーセントタワー 16 階  
 ○講演  
 「令和時代の教育を語る」  
 浅野 敦行 氏（文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課長）  
 ○シンポジウム  
 「令和時代の教育をリードするために」  
 シンポジスト 浅野 敦行 氏  
 吉永 和加（岐阜聖徳学園大学教授） 水川 和彦（岐阜聖徳学園大学教授）  
 芳賀 高洋（岐阜聖徳学園大学准教授）（進行）玉置 崇（岐阜聖徳学園大学教授）  
 ○教育実践セミナー  
 「GIGA スクール構想って何だ！ 一人一台 PC 授業を考える」  
 登壇者 高木 良太 氏（岐阜・公立小・教諭） 森 昭則 氏（愛知・公立小・教諭）  
 石原 一彦（岐阜聖徳学園大学教授） 鈴木 明裕（岐阜聖徳学園大学教授）

図 1 2020 年チラシの内容

しかしここに、未曾有のコロナ禍が生じた。文部科学省の新型コロナウイルスに対する主要な通知や通達を年代順に示すと、

- 2020 年 2 月 28 日：全国の小中高校に対して臨時休校を要請。
- 2020 年 4 月 7 日：緊急事態宣言に伴い、オンライン授業の推奨や学習支援の強化を通知。
- 2021 年 1 月 8 日：再度の緊急事態宣言に伴い、学校の感染対策の徹底を通知。
- 2021 年 4 月：新学期に向けた感染対策ガイドラインの更新。
- 2022 年 1 月：オミクロン株の拡大に伴い、学校での感染対策の強化を通知。
- 2022 年 4 月：新学期に向けた感染対策ガイドラインの再更新。
- 2023 年 5 月 8 日：新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことに伴い、学校での対応方針を更新。

がある。

2020 年の学校を取り巻く環境は、大きく変わった。変わらざるを得なかった。例として、次のものを挙げることができる。

- 臨時休校：2020 年 2 月 27 日に安倍晋三首相（当時）が全国の小中高校と特別支援学校に臨時休校を要請し、多くの学校が 3 月 2 日から臨時休校に入った。
  - オンライン授業の導入：臨時休校中、双方向オンライン授業を実施する学校は少なかったものの、GIGA スクール構想により、全国の小中学生の一人一人に情報端末が配布され、デジタル授業が加速された。
  - 分散登校と感染対策：学校再開後は、分散登校やオンライン授業を組み合わせる形で授業が行われた。教室内でのソーシャルディスタンスの確保や、マスクの着用、手洗いの徹底などの感染対策が実施された。
  - 行事の中止や変更：運動会や遠足などの学校行事は中止や延期となり、給食時の「黙食」など、新しい生活様式が取り入れられた。
- これらの状況を受け、2020 年の「教育フォーラム」は中止せざるを得なかった。

## 2. 2021 年（R3）

図 2 は 2021 年のチラシの内容である。

2021 年の「教育フォーラム」は、まず実施することができるかどうかが問題となった。

計画を立てる 2020 年はコロナ禍の真最中で、大学での講義もオンラインによる授業が中心であった。

メインタイトル：令和時代の教育をリードする  
 日時：2021年6月6日（日）  
 大学サテライトスタジオからYouTube LIVE 配信  
 ○講 演  
 「令和の日本型学校教育の構築をめざして」  
 浅野 敦行 氏（文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課長）  
 ○シンポジウム  
 「令和時代の教育をリードするために」  
 シンポジスト 浅野 敦行 氏  
 吉永 和加（岐阜聖徳学園大学教授） 篠原 清昭（岐阜聖徳学園大学教授）  
 芳賀 高洋（岐阜聖徳学園大学教授）（進行）玉置 崇（岐阜聖徳学園大学教授）

図2 2021年チラシの内容

つまり、人を集めての研修は計画できる状況ではなかった。しかし逆に、オンラインによる授業、オンライン会議に慣れ、オンラインによる活動に抵抗感がなくなっていく。このことは、小学校、中学校、高等学校の学校現場・教職員も同様である。このような背景から、対面での「教育フォーラム」から「大学サテライトスタジオからYouTube LIVE 配信」による「教育フォーラム」へと移行することとした。

「大学サテライトスタジオからYouTube LIVE 配信」に移行することによるメリット、デメリットは当然ある。一番のメリットは、これまで参加者は、名古屋駅近郊まで来ることができる人に限られていたが、全国の人に広げることができる。「教育フォーラム」の企画・内容は、ローカルなものでなく、全国で視聴いただける企画・内容であり、価値あるものであるという自負がある。教育についての学びを共有できる仲間が全国に広がることは大きなメリットである。また、「大学サテライトスタジオからYouTube LIVE 配信」であるが、その時間だけでなく[当日ビデオ(YouTube)]として、後日視聴したり、再度見直したりすることが可能となる。一方でデメリットは、オンライン全般のデメリットでもあるが、一方通行的になることがある。対面で、息遣いを感じながら参加するのと、オンラインでの参加では臨場感に大きな差がある。講演者や発言者に、直接質問をしたり、意見交換をしたりする場を設けることが困難である。また会場にいる者同士で意見交換をすることはできないため、深める機会が制限される。このようなメリット、デメリットを考慮しつつ、「大学サテライトスタジオからYouTube LIVE 配信」への移行を決断した。

2021年の「教育フォーラム」の内容は、2020年に企画していたものが主である。講演・シンポジストを引き受けていただいた浅野敦行氏（文部科学省 初等中等教育局 初等中等教育企画課長）の理解と協力に負うところは大きい。

2020年には企画されていたが2021年に実施されなかった企画として、教育実践セミナーがある。教育実践セミナーは、借りた会場を有効に使う企画として「若手教師向け授業づくりセミナー」を行ってきたものである。そのため、岐阜県、愛知県で勤務する現場の教師を登壇者に迎え、フロアとも一体となって学びあう企画である。このような性格の企画であるため、「教育フォーラム」が「大学サテライトスタジオからYouTube LIVE 配信」に移行したことにより、断念することとなった。

当日の内容について、本学教職教育センターHPの「教育フォーラム」にある「やわらぎ記事」の冒頭部分を以下に紹介する。

2021年6月6日 岐阜聖徳学園大学のサテライトスタジオで「教育フォーラム2021 令和時代の教育をリードする」が開催された。このフォーラムを参観・取材することができたので大学外の者が感じた内容を発信する。

今回で第4回目となるフォーラムは、現状を考慮し初のオンライン生配信（YouTube Live）で行われた。参加費は無料で興味があれば全国どこからでも、誰でも視聴可能という、新しいスタイルで行われた。開催毎にその時に即した題材、人物を集め熱く議論するのが特徴のこのフォーラム。

今回は文部科学省から重要人物を迎え、さらに3名違った角度からの研究分野をもつ岐阜聖徳学園大学の教授が登場した。

全二部構成、およそ二時間に渡りフォーラムは生配信された。

第一部では、「令和の日本型学校教育の構築をめざして」という題で浅野氏による最新の情報満載のご講演。

第二部では、60分のセッションで玉置教授進行のもと、令和時代の教育をどのような観点で行ったらよいのか、浅野氏と3名の教授によってシンポジウムが行われた。

なんと言っても今回注目の論点は「令和時代の教育」について。令和3年1月26日に中央教育審議会が「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～を答申したばかりだ。

この湯気が上がるほどの新鮮でタイムリーな話題に、いち早く反応しフォーラムを開催したのが、教育に力をいれ毎年質の高い教員を輩出している岐阜聖徳学園大学で、各方面からも注目が集まっていた。withコロナ時代、急速に変革する教育現場。今後、令和の教育はどうなってしまうのか？関心の集まる話題を熱く議論した様子をピックアップしてお届けする。ディスカッションの全容は現在もYoutubeにアップされているので、ぜひ動画を視聴していただきたい。

<https://youtu.be/wDE06jOhGOM><sup>2)</sup>

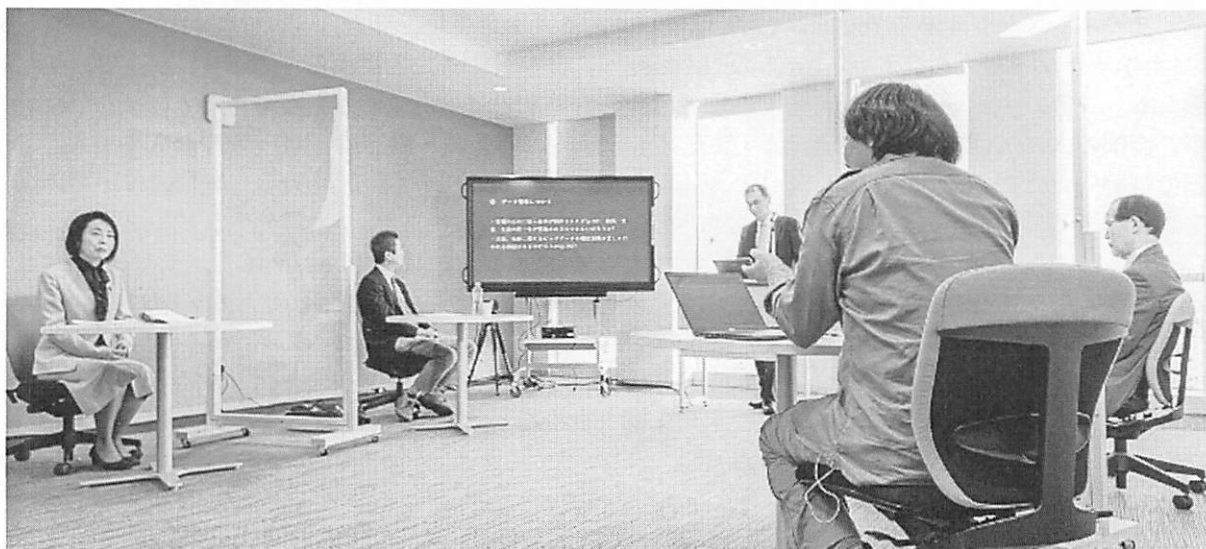


図3 大学サテライトスタジオから配信の一場面

### 3. 2022年(R4)

メインタイトル：令和時代の教育をリードする

日時：2022年6月5日(日)13時30分から

大学サテライトスタジオからYouTube LIVE配信

○講演

「GIGAスクール構想の次を語る」

板倉 寛 氏(文部科学省・学校デジタル化プロジェクトチームリーダー、大臣官房文部科学戦略官、初等中等教育局視学官、GIGASTuDX推進チームリーダー、学びの先端技術活用推進室長)

○シンポジウム

「令和時代の教育をリードするために」

シンポジスト 板倉 寛 氏

秋山晶則(岐阜聖徳学園大学教授)

石原一彦(岐阜聖徳学園大学教授)

山田貞二(岐阜聖徳学園大学准教授)(進行)玉置 崇(岐阜聖徳学園大学教授)

図4 2022年チラシの内容

図4は2022年のチラシの内容である。

2022年は2021年の「教育フォーラム」の形を踏襲している。講演のタイトルは「GIGA スクール構想の次を語る」である。コロナ禍により、オンライン授業の導入が積極的に導入された（導入せざるを得なかった）。それまで双方向オンライン授業を実施する学校は少なかったものが、GIGA スクール構想により、全国の小中学生に一人一台の情報端末が配布され、デジタル授業が加速された。GIGA スクール構想という言葉も、身近なものを感じられてきている時である。

#### 4. 2023 年 (R5)

メインタイトル：令和時代の教育をリードする  
 日時：2023年6月4日（日）13時30分から～  
 大学サテライトスタジオからYouTube LIVE 配信  
 ○講演  
 「改めてなぜGIGAが大切なのか」  
 武藤 久慶 氏（文部各省 初等中等局 学校デジタル化プロジェクトチームリーダー）  
 ○シンポジウム  
 「GIGAを踏まえて 幼小中高および大学教育はどうあるべきか」  
 シンポジスト 武藤 久慶 氏  
                   宮野 裕（岐阜聖徳学園大学教授）  
                   芳賀 高洋（岐阜聖徳学園大学教授・DX推進センター長）  
                   福地 淳宏（岐阜聖徳学園大学准教授）（進行）玉置 崇（岐阜聖徳学園大学教授）

図5 2023年チラシの内容

図5は2023年のチラシの内容である。

2023年は2021年、2022年の「教育フォーラム」の形を踏襲している。講演のタイトルは「改めてなぜGIGAが大切なのか」である。2022年の講演タイトル「GIGA スクール構想の次を語る」に対して、実際にGIGA スクール構想で授業が進められている中ではあるが、なかなか進まない、学校間格差、教師間格差が進んでいるという教育現場の課題を踏まえてのものである。

当日の内容について、本学教職教育センターHPの「教育フォーラム」にある「やわらぎ記事」の冒頭部分を以下に紹介する。

2023年6月4日（日）、13時30分から岐阜聖徳学園大学羽島キャンパス・サテライトスタジオにて、「令和時代の教育をリードする」をテーマとした教育フォーラムが開催されました。「GIGA スクール」という言葉はすっかり耳になじんできました。しかし、現場では「なぜGIGAを重視しなければならないのか」という声も聞かれるようになってきました。当日は、文部科学省初等中等教育局 学校デジタル科PTリーダーの武藤久慶氏の講演をもとに、シンポジウムが行われました。武藤氏にはGIGA スクール構想の根底にある理念を語っていただき、それを受けて、幼稚園、小学校、中学校、高等学校および大学教育の在り方について武藤氏も交えた4名のシンポジストによる論議が繰り広げられました。<sup>3)</sup>

#### 5. 2024 年 (R6)

日時：2024年6月2日（日）13時30分から  
 大学サテライトスタジオからYouTube 配信  
 ○講演  
 「学習指導要領 — 「読み方」・「活かし方」 から 「議論の仕方」・「創り方」へ—」  
 合田 哲雄 氏（文化庁次長）

○シンポジウム

「今後の幼小中高および大学教育はどうあるべきか」

シンポジスト 合田 哲雄氏

寺田 光宏（岐阜聖徳学園大学教授） 松本 和久（岐阜聖徳学園大学教授）

中島 葉子（岐阜聖徳学園大学教授）（進行）玉置 崇（岐阜聖徳学園大学教授）

図 6 2024 年チラシの内容

図 6 は 2024 年のチラシの内容である。

2024 年は、形は前年までの「教育フォーラム」を踏襲している。しかし、講演のタイトルからは「GIGA」の文字が消え、「学習指導要領 — 「読み方」・「活かし方」 から「議論の仕方」・「創り方」へ—」となっている。この状況について、本学 HP「教職教育センター〔教育フォーラム〕」の〔案内〕では、以下のよう説明している。

2024 年 6 月 2 日（日）岐阜聖徳学園大学 教育フォーラム 2024「令和時代の教育をリードする」(LIVE 配信)を開催します。

学習指導要領が完全実施となり、小・中・高では、それぞれ 5・4・3 年目を迎えています。

そこで、今回は、文部科学省で学習指導要領改訂に強く関わられた合田哲雄氏（文化庁次長）に、現学習指導要領のあらためての捉え方や今後の学習指導要領を創るための議論の仕方などについて語っていただきます。それを受けて、これからの学校教育の方向性について論議したいと思います。<sup>4)</sup>

ここで、この「教育フォーラム」を視聴した本学学生の感想とそれを受け取った合田氏のコメントを示す。

《本学学生の感想》

動画を視聴して、私が最も心に残ったことは 2 つあります。

1 つ目は、「デジタル化」についてです。合田さんは、「デジタル化」について、次の学習指導要領改訂で軸足に置くべきものであると仰っていました。昨年の教育実践観察でも ICT について着目し、教育現場でどのように活用されているかを学んできました。私は実習を通して、ICT を活用することで図形や教科書を映し出して授業を円滑に行えること、板書などの時間を最小限にでき常に児童生徒と向き合える環境が作れること、学校と保護者との連絡が気軽に行われるようになったことなどを学んできました。しかし、合田さんの話を聞き進める中で、今までの私は ICT 活用は「教師」にとってより良い手段の一つであるとばかり考えており、「児童」からの視点には目を向けていなかったことに気付かされました。今回のお話を聞いて、デジタル化は、多様な考えを持つ児童生徒の学び方に柔軟に対応するために活用されているのだと分かり、一人一人に合った学習方法が選択できる 1 つのツールなのだと認識が大きく変わりました。

2 つ目は、“「みな同じがよし」から他者との違いに意味や価値がある社会へ”という言葉です。この言葉を聞いて、現在履修している保育の授業とも通ずるものがあり、最近頭の片隅で考えていたことだったので深く共感できました。これまで自分が体験したり見たり聞いたりして知り得た現在の教育では、なにかと一つの答えを求められているような気がしていて、気付かぬうちに教師が思う正しい方向へと児童生徒を導き、可能性を狭めてしまっているのではないかと感じます。私自身、人と違った考えを持つことに不安を覚え、心の中で思っていたとしても少数派として手を挙げ発言することにとっても抵抗がありました。しかし、これからの教育では、人と違うことをするのがダメではなく、むしろ良いことと思える授業づくりや学級づくりをしていくべきであると学びました。例えば、何か一つのテーマで制作するにしてみても絵や感想文をかかせるだけでなく、粘土で表現したりダンスをしてみたりするなどがあるのではないかと考えます。このように、教師はすべての児童生徒に同じものばかり強いるのではなく、児童生徒が自由に発言・発想しやすいよう環境を整えたり、選択肢を与えたりすることが多様

性にも繋がっていくのではないかと考えました。そして、少数派の意見を受け止め、価値づけし、他の児童生徒に広めていくことが教師の役割になってくるのではないかと考えます。このような環境が整った時、児童生徒は自分にはないものをもつ仲間への違和感や妬みなどを抱くのではなく、多様な意見や個性を受け入れる中で新たな発見や、それらと比較した仲間の良さや自分自身の良さに気づくことへと繋がっていくと思いました。学校生活の中で、児童生徒が自らの力で気づきを深めていき、どれも間違いでなく価値あるものだと思えていけるような学級経営ができる教師でありたいと感じました。

今回このような機会を頂いて、これから教員を目指す上で、現状の教育ばかりにフォーカスするのではなく、それも踏まえつつ、学習指導要領改訂に合わせて今後の見通しも持っていかなければいけないと思いました。

今は、まだまだ知識不足でスタートラインにも立てているか分からないですが、様々なことにアンテナを張り巡らせ、明確な自分の教育観を確立させていこうと思います！

《合田氏のコメント》

私の拙い話を、次代を担う若い方にこのように受け止めていただき、心から嬉しく存じます。  
 学生の皆さんにはこれから多くの時間があります。本当に羨ましい限りですが、その若い方々が存分に次代を切り拓くことができるように今私にできることは何でもしたいと存じております。引き続きどうか宜しく御指導くださいますようお願いいたします。

学生の拙い文ではあるが、この「教育フォーラム」での学びから、自分の受けてきた教育をもとにした固定観念から一歩踏み出そうとしていることが分かる。そして、合田氏のコメントには、若い世代が時代を切り開いていくことのへの期待があふれている。このことは、私達が「教育フォーラム」を実施していくことの願いと一致するものである。

Ⅲ. おわりに そして「教育フォーラム」第三期に向けて

本学「教育フォーラム」の2020年（R2）から2024（R6）の5年間の取り組みについて示した。それは、「教育フォーラム」の第二期といえるものである。

第二期は、本学での「教育フォーラム」第一期の成果と反省による改善計画と、2020年1月に国内で初めての感染が確認された感染症 COVID-19 の流行とによって、形を変えていったものである。

大学サテライトスタジオから YouTube 配信を行ったことにより、視聴者数は表 1<sup>5)</sup> のように非常に多くなった。第一期の対面での参加者が、2018 年が最大で延べ人数（部分参加を含めて）が 248 名であったと考え、YouTube 配信のメリットとしたものを十分に達成できていると考えている。しかし、この 5 年間ではデメリットの改善を進めることはできなかった。

表 1 視聴回数

|        | 視聴回数 |
|--------|------|
| 2021 年 | 2343 |
| 2022 年 | 3246 |
| 2023 年 | 4333 |
| 2024 年 | 617  |

そこで現在、大学サテライトスタジオから YouTube 配信のメリットを生かしつつ、対面のよさを取り入れていくことを模索している。具体的には、視聴した直後に、講演者やパネルディスカッションのパネラーに直接質問をしたり、意見交換をしたりする場を設けることである。それは、会場に足を運んでいただいた方限定になるかもしれない。しかし、その試みにより、YouTube 配信のよさと対面のよさを取り入れた新しい「教育フォーラム」がつけられると考えている。本学「教育フォーラム」第三期である。そのことにより、全国の先生方への発信と地元の先生方への貢献を図っていきたい。

注・文献

- 1) 岐阜聖徳学園大学教育フォーラム実行委員会（2019）：本学「教育フォーラム」の取り組み，岐阜聖徳学園大学教育実践科学研究センター紀要，19，167-173.
- 2) 岐阜聖徳学園大学 WEB マガジン YAWARAGI（2021）：「教育フォーラム 2021 ～令和時代の教育をリードする～」を参観して、<https://yawaragi.shotoku.ac.jp/posts/60d1b5de1dcb3a7477959c70>、2024.9 取得

